

林 大 だ よ り



第 65 号 平成 25 年 3 月 15 日

長野県林業大学校翌協会



1 学 年 樹 木 学 実 習 （上松町 赤沢自然休養林）



2 学 年 保 健 休 養 学 実 習 （乗鞍高原）



木 望 祭

頑張れ卒業生

翌検会会長 松尾 隆



こうして、林大だよりの依頼が来て、「もうこんな時期になったのか」と呟きながら、この二年間を振り返ってみました。

息子が高校で進路に迷い悩んで、林業大学校を希望し試験に合格することができて大喜びしている夫婦の横で、息子は全然知らない学生と全寮制の中で学校生活ができるのか不安そうにしていたの思い出します。それが、入学をしてしまうと不安の不の字もなく、隣町にある家にも帰ってこなくなりました。この時、寂しさもありましたが、林業大学校の方針でもある全人教育の中で色々な経験、体験、勉強ができることが、これからそれぞれ社会に出た時にきつと役に立っていくと思えました。しかし、今の時代

は、僕らのアナログ時代の様なスローな部分が少なく、何時もアンテナを張り巡らせていないと乗り遅れてしまう様な時代で、今まで以上に努力をしなければいけないことが多くなるかも知れません。そこで、道に迷う時、立ち止まる時があると思います。そんな時こそ同じ釜の飯を食べた林業大学校の仲間がいます。色々な考え、思いを持っていると思います。自分一人で考えこまず、相談、話をして助け合う仲間であって下さい。そ

して、自分を見失わない強い社会人になってほしいと思います。この二年間お世話になった先生、舎監さん、寮母さんに感謝し、社会に出てこの気持ちを忘れず一歩一歩踏締め前進して下さい。卒業おめでとう！

最後になりましたが、校長先生をはじめ教職員の皆様、子供達をあたかくご指導いただき本当にありがとうございました。そして、翌検会会長として力不足でありましたが、事務局、会員の皆様にご迷惑を掛けながら会長を務めさせていただき感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

二つのペナント

長野県林業大学校長 中村 慎



昔は林業大学校にも校長室があつて、職員室とは壁で仕

切られていた。十年ほど前、「風通し」を良くするために壁が取り払われ、職員室に三つの出入口ができた。不要になった真ん中の出入口は「開かずの扉」となり、元校長室の出入口が通用口の二つとなった。その扉を開けると、

複写機が現れ、その奥に客用の応接セットや校長用の執務机が見える。応接セットの傍には掲示板の役目も兼ねる衝立が置かれ、そこには、少し場違いなハロー・キティのペナントが二つ飾られている。それは、私が校長に就任した頃、たまたま百円ショップで見つけたもので、それぞれに、ある言葉が記されている。

その一つは「一期一会」だ。今さら説明するまでもなく、それは人との出会いを語る際によく使われる言葉だ。仏教の世界では、「一期」とは、人が生まれてから死ぬまでの時間のことを意味し、「二期」とは、法要などの集まりや会合のことを意味するものだと言われる。その二つを重ねた「一期一会」という言葉が、千利休の茶の湯の教えに由来するものであることは広く知られているが、その言葉が意外な人物によって広められたことを、最近になって私は知った。

NHKの大河ドラマ「八重の桜」は、主人公の八重を演じる綾瀬はるかさんの人気もあって上々の滑り出しだ。会津藩の視点に立って明治維新

を描いた新鮮さも、その一因なのかもしれない。ドラマの中で榎木孝明さんが演じた幕末の大老井伊直弼は、あつてなく水戸浪士によって暗殺されてしまったが、実際に彼の行った政策は、今もって評価の分かれるところではないだろうか。その井伊直弼が記した、茶道の名著「茶の湯一会集」には、「客と自分がこのように出会い、過ごしている時間は、二度と巡っては来ない一度きりのものだ。だからこそ、一瞬一瞬を大切に生きて、できる限り最高のおもてなしを尽くす。」という一節がある。こうしたことから、

も、「二期一会」という言葉は、井伊直弼によって広められたものだと言われるが、激動の幕末に生き、非業の死を遂げた彼の生涯を想えば、一段とその意味が深いものと思えてならない。

縁あって、私たちはこの木曾の地で共に学び合う機会を得た。しかし、やがては皆またそれぞれの道を歩き始め、そこではまた新しい出会いが待っている。「二期一会」。授業や実習でも、寮生活でも、この時、この出会いを大切に生きて行こう。

因みに、もう一つのペナントには「思い立ったが吉日」と書いてある。どちらも学生

への願いと、私自身への戒めとして飾ったものだ。

林大生に期待する！

信州大学理学部 教授 藤山 静雄



私は生物学を教えています。が、関心は生物の保全にあります。豊かな自然はヒトを含めた生物の命を守ってくれています。その自然がどんどん壊れているからです。森林は自然の代表と見られているので自然の保全に関心があつて林大に入学した人も多いと思います。それで私がやっているホタルの保全活動を見に来てくれた人が多く、一緒に活動をしてくれた人もいます。私は一般のホタル保護とは違い「ホタルもめざし活動しています。皆さんがホタルや有機農業の畑などいろいろな自然環境に関心を

持つておられることを、大変嬉しく思います。その広い視野を将来まで持ち続けて下さい。さて、実際に理想的な自然の保全を行うことは大変難しいことです。現代は科学や技術が日進月歩で、人の力は益々巨大化し、お金をかければ何でもできそうに思いますが、そのため自然を守ることは古臭く、経済の発展を阻害しているとみる人も多いのです。何故なら、自然を観光や施設作りに利用すれば大きな経済利益が得られるのに、自然を大切にすればするほど経済利益は小さくなるからです。しかし、壊した自然を復元するには、自然を壊さないよう守るよりもずっと経費を要します。皆さんはそうした現代の世相を承知し、自然の大切さを思うがゆえに自然の保全に関わろうとしているのではないのでしょうか。中に

は、そうでない人もいるのかもしれません。いずれにしても私は皆さんを大いに支援したい。自然を守ることをなし遂げるのは大変難しいことです。私は、世間に抗して思いを成し遂げるには、皆さんが本物の専門知識を習得し、自然を守ることの大切さを皆に上手に伝え、賛同を勝ちとることだと思えます。どうか

皆さん、自然豊かなこの学び舎で本物の知識、技術を修得し、寮生活を通して皆でよく語りあい、説得力を身につけて下さい。是非目標に向かって頑張ってください。自然のよく分かる林業の専門家として活躍されることを大いに期待しています。私は常に自然の保全をめざしていて皆さんを応援しています！

長野県林業大学校を世界へ

木曽御嶽奉仕会会長

池田木材株式会社代表取締役

池田 聡寿



今年の冬は例年にない寒さで、雪も多く当社池田木材株式会社のある上松町正島地区においても三十cmを超す積雪が、何日か続き毎日雪かきに汗をかいております。

里でこの雪とすると、王滝や木曽檜が多く生育する御嶽山を中心とした深山は気温マインス二十度近くとなり、雪だまりとなる谷側はおそらく

二mを超す積雪となっている筈。

木曽が世界に誇る建築素材である天然木曽檜はこの様な厳寒の厳しい自然環境を三五〇年を超える悠久の年月を耐え生き抜いて出来た。

稚樹の頃はすっぽりと雪に埋もれて、春の訪れを待ち、幼樹の頃には幹が細い内は何度も雪に倒されては起き上がることを繰り返しながら、大樹へと育っていきます。極寒の自然環境で育つので、年輪が緻密で、狂いや割れが少ないのに加え色合いに品があり耐用年数が高いので、神社仏閣

の建築用材や仏像彫刻用材として高く評価されています。

只、木曽檜は江戸期の初期一六五〇年を過ぎた頃、戦国時代に破壊された神社仏閣やお城の再興の為に乱伐された為、木曽全山尽山となりけり。体径木が無くなつてしまつたと言われています。が、僅かに残された母樹から種がとんで、現在の木曽檜の美林が復活して来たとされています。

木曽には奥千本や瀬戸川、油木沢、まだ沢山の木曽檜の美林が残り、霊峰御嶽山を中心とした大自然のフィールドが林大生の皆さんを迎えてくれます。

一昨年より中村校長先生が、数人の一年生を同行させて、私が会長を務めている木曽御嶽奉仕会の御嶽山の登山道整備に参加いただき、何と昨年は校長先生と一年生全員が引率の先生方と共に登山道整備に汗を流していただきました。大自然の鼓動を生で感じて貰う良い機会であつたと思っております。

私は将来、林業大学校を世界的な山と森林の環境大学にしたいと大きな夢を持っております。日本では珍しくなつ

た荒らされていないこの大自然のフィールドを持つている本曾だからこそ実現可能とは思っております。

生徒の皆さん方にはその折教授として迎え入れることが出来る様な研究をお願いしたいと思っております。

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

林大に来てみて



1 学年 内山 陽太

自分は、小さいころから自然の中で遊んできた。その中で、ごく単純にこのような自然の中で仕事をしてみたい、あるいは自然を守る仕事に就きたいと思い始めるようになった。また、その思いは高校に入ってから一段と強くなり、父からこのような学校があると、林大のパンフレットをもらったのがきっかけになり、入学しようと思った。実際に入学して、第一に思った

ことは、いろんな考えを持っている人間がいるということである。当然、自分と違う人がいて当たり前だと思うが、「このような価値観を持っている。そんなふうと考えているんだな。」と自分の中では少なからず驚きを持った。だが、彼らと一緒に生活することによって、助け合いながら仲間を大切にしていきたいと思っている。



百聞は一見にしかず



1 学年 蒲原 建人

林大に入学してから一年がたち、早くも二年間あるうちの半分が終わろうとしている。この学校では会社を見学したり、現場に行き実際に作業をする機会がたくさんあり



1 学年 林業概論（グループ研究）

ます。そこで改めて思ったことがありま。それは、「百聞は一見にしかず」という言葉です。これは繰り返し他人の話を聞くより、実際に自分の目で確かめたほうが理解できるという意味です。私は農

業高校出身でいろんなことを学んでいたのですが、現場に行く機会があまりなかったため、うまくイメージがつかめませんでした。でも林大に入り、実際に山を測量してみたり、チェーンソーを使って木を伐ったり、たくさんの実習を通じて自分で見る、体験することでした。イメージをつかむことができました。二年生になると一年生の時よりも会社見学や実習が多くなるので、しっかりと自分の知識として蓄え、経験したこと

林大に入学して



1 学年 武田 美紗

を、これからの勉強や将来の就職につなげていけるよう積極的に参加していきたいです。

一年前の今頃は、毎日がとても鬱でした。寮生活がとても不安で、家大好きっ子なこの私のはたして地元岩手から遠く長野で生活ができるのだろうか。楽しい寮生活などとは、どうせ嘘なんだろうと思っていました。いざ入寮してみると、先輩方は優しくて一番辛いであろう初めての独りの夜は泣くこともなく過ごせました。日々を過ごしていくうちに一年生とも話すようになり、林大での生活は楽しいものとなりました。入学して早一年、全寮制ということもあり、とても中身の濃い日々を過ごしています。もうすぐ二年生になるので進路の

ことも考えつつ、残りの一年間を楽しく過ごしていきたいです。

話は変わりますが、一学年にはサ行の名字が少ないです。日本で多い名字ランキングの佐藤や鈴木もサ行ですが一学年にはいません。サ行の名字は結構あると思うのですが、なぜ一学年にはサ行の名字が少ないのか。これが最近よく考えることです。

林業大学校の 生活を通して



1 学年 野中 恵介

私がこの林業大学校に入校したのは去年のことだった。そのとき私は、この学校での生活に期待より不安が大きかった。学校・寮生活になじめるだろうか。私は、寮生活について殆どを知らず、知っていることといえばテレビで取り上げられるような厳しい学校の様子だけであった。林業大学校の翌檜寮に入寮する前は、とにかく不安で仕方な

かった。しかし、私はこの学校に入り、実際に見たことによつて自分の考えていた寮生活や先輩方のイメージが大きく変わった。先輩方は皆優しく、入寮日には私が寮に入ったら名前を聞かれ、届いた荷物を自ら進んで運んで下さった。これを見て、私は感謝と共に自分の思っていた寮のイメージと違い、驚いたこと覚えてる。

思えば、なぜ自分がこの学校に入校しようと思ったのか、それは高校生であったときの生徒指導の先生に言われたことがきっかけであったと思う。その先生は授業の余った時間を利用して、今やるべきことなどについて話してくれた。その中でこの厳しい世の中で行動することができるとは幸せなこと、できるときにできることをした方がいいと言っていた。私は長野県林業大学校に興味があったが、一步を踏み出せなかった。しかし、先生の言葉を聞き、その一步を踏み出すことができた。今の自分は先生の言った言葉を実現できているだろうか。これからも、この言葉を心に留め、残りの学生生活を送っていきたい。

1 学年 狩猟講習



1 学年 クレーン実習（木曽町）

子と思う親の心は ありがたい



1 学年 横山 裕也

地元山形から長野に来てもうすぐ一年がとうとうとしている。親元を離れ、林業を共に学ぶ仲間との生活は毎日が刺激的で、この一年間は自分を

大きく成長させてくれた。この場所に来てから強く思っていることがある。それは両親の偉大さだ。私は食堂でアルバイトをしているのだが、ある夫婦が来店してきたときの話だ。そのときはたくさんのお客さんが入りとても忙しく、注文を聞きに行ったり、料理を運んだり足を止める暇がなかった。ようやく落ち着いてきて、その夫婦が会計のときに、私に話しかけてきてくれた。「今日は大変

だったね。私の息子も今古屋の大学行つて、アルバイトしながら勉強していき。お兄ちゃん見てたら息子のこと思ひ出しちゃってねえ。あの子今元気でやってるのかしら。」と涙ながらに語ってくれた。そのときふと、自分の両親もこんなことを思っているのではないかと感じた。十八年間支えてくれた両親のありがたさを再確認させる出来事であった。

「I LOVE YOU」



2 学年
片山 麻衣

二年という期間がこんなに早く過ぎていつてしまったことはありません。こんなにも自分らしさを出せた学生生活は初めてです。ここ林業大学校には、そんな思いを抱かせてくれる仲間がいます。全力

で私のことを応援してくれている先生方がいます。そして、毎朝早くから出勤し、夏の暑い日も冬の寒い日も本当に美味しい愛情のこもったご飯を作ってくれる寮母さんがいます。思い返せば返すほど感謝の気持ちでいっぱいになります。「本当にありがとうございます。」

卒業後は、正式に就職先が決まっています。私は兵庫県に戻ります。私にはどうしても叶えたい「夢」があります。これからの人生は、その「夢」に対してどれだけ真剣に生きているかを「行動と結果」で示していきます。最後に一言。「皆のことは絶対に忘れな

いから。何かあったら、すぐに駆けつけるから電話してきてな。ホンマ、皆良い子過ぎー大好きやでえ♡」

休日のそうめん流し（野外教室）



最高の二年間を
ありがとう！



2 学年
下斗米裕理子

林大生活を振り返って、一番伝えたいことは、寮生活

が最高に楽しかったことです。寮だからこそ、みんなの色々な一面を知ることができました。特に女子のみんなにはお世話になりました。頭が

良くて心配性の晴ちゃん、優しくして笑いを巻き起こす麻衣ちゃん、五人の中で唯一のツッコミ役、あやめ。美恵とは、暴食もダイエツトもよく

やったよね、（笑）毎日笑いの連続でした。こんな楽しい生活も、あとわずかだと思うと、とてもさみしいです。私にとって林大は、学ぶ場であり、家でもありました。編入試験を終えて帰ってきたとき、みんなの顔を見た瞬間に緊張が緩み、号泣したことを覚えています。知らず知らずのうちに、気を許し、ありのままの自分になれる場所でした。心から大切にしたいと思

消防訓練（林大講内）



うものになりました。故郷を離れて見知らぬ土地で僕にとつてはゼロからのスタートでした。岩手を離れる時に起きた大震災によって多くの方の命が失われたことを身近に感じて、自分の無力感とかさまざまな感情を感じました。そんな中、自分だけ長野県へ行っても良いものかと考えたこともありましたが、しっかりと学んでいこうと決心してきました。

この林大での仲間は中学、高校とは違った一日集団生活の中で過ごしてきました。喜怒哀楽のいろいろな感情を打ち明けられる仲間に出会えた僕は、本当に林大で学ぶことができて良かったと思っています。

大切な林大の仲間へ



2 学年
外柳 剣太

人への気遣い、対応の仕方、すべて思いやりがあるからしっかりと出来ることだと思います。屋久島、オーストリア、さまざまな実習などみんな協力しあえるから、本当の仲間なんだと思います。故郷である岩手県を忘れることはなく、また第二の故郷が僕の中に出来たと思います。

入学してからこの二年間、今までの学校生活とは全く違

みんなありがと



2学年 松尾 薫

入学して最初の頃は不安だらけでした。でも、そんな不安を打ち消してくれたのが今の二年のみんなでした。二年のみんなには、勉強の面でも寮生活の面でもいろいろ助けてもらいました。私が林大で一番心に残っていることは、みんなで過ごした寮生活です。

二年のみんなはとても仲が良く、授業や研修などでもみんな協力して毎日頑張っていました。時には大変なことがありましたが、いつも二年の誰かが助けてくれ、みんな楽しく学校生活を送ることができました。



2学年 木材加工学実習（大町市）

といったそれぞれの道に進みますが、これからもみんなとは連絡を取り合いお互いに情報交換をし、年に何回かはみんなと会えたら良いと思います。この林大で学んだ二年間は、これから先の生活に絶対に役に立つと思うので、四月からはしっかりと仕事を頑張っていきたいです。

そして、二年の仲間にはほんとに感謝しています。この先、仕事などでくじけそうなことがあっても林大の仲間を思い出して頑張りたい。林大サイコー。

内容の詰まった

林大生活



2学年 渡辺 裕基

二年間の林大生活は、あつ

という間の生活でした。最初

は不安しかなく、人見知り

だったので寮生活になれるのが心配でした。ですが数カ月

後には、先輩や後輩とも楽しい関係が築けて、長期休みも

早く寮に帰ってみんなに会いたいと思いました。どんなに辛くてもみんなの励ましがあるだけで、どんなことでも乗り

り越えていけました。だから今があるのだと思います。勉強に関しても、普通科からこの学校に入ってきて専門科目

ではみんなに後れを取りましたが、周りの人が色々教えてくれたおかげでどうにかになりました。今は寮生活が楽しく

て仕方がありません。一人の時間よりみんなという時間の方が楽しかったです。今後社会に出て行ったとしても、みんなと行ってきた数々の出来

事は忘れることはないでしょう。

う。

林大生の絆は固く結ばれ、誇りに思える人たちばかりです。

この二年間で私に関わってくださった人みんなに感謝を言いたいと思います。

本当にありがとうございます。

う。

う。

う。

2学年 インターンシップ等
研究成果発表会（講堂）

保護者のページ

絵の一言

やがて立派な

大木と...

小椋美恵子



わが家は京都市内の北東に位置し、まだ豊かな自然が残る里山のふもとにあります。

息子は、歩き始めの幼い頃より、右手にアマガエル、左手には虫を握りしめ、付近を散歩するのが日課でした。小学生になると、近所の仲間と田んぼや野山を駆け回り、秘密基地を作ったり、用水池でブラックバスを捕まえ、山でこっそり焼いてたべるなど、親はハラハラの毎日でした。中学時代は、自転車ですぐまで蝶や昆虫採集に出かけて行くようになりました。高校は全寮制の農業高校。早朝と放

課後に農作業や食事当番をこなし、規律や先輩後輩の人間関係に悩み、心と体を鍛えました。

林大では、木曾の大自然の中、自主性を重んじる寮生活を楽しんでいるようです。先輩や同級生とはいえ、年齢も経験も違う仲間に出会い、多くを学んでいるようです。こうして安心して息子を見守っているのも、教職員の方々のいろいろな場面での支えがあつてこそと感謝しています。

また、彼が小学校時代より関心を寄せ、彼なりに継続してきた蝶の採集と、自然との関わりについて、研究発表する機会を与えてくださったこと、とてもうれしく思っています。

この先、息子がどのような職業につき、どこで暮らしていくのかはわかりませんが、きつと、都会ではなく自然の豊かなところで、自然を相手に働いていることでしょう。

林大のホームページの言葉にある、しっかりと地面に根を張った大木を目指す若木として、今を大切に過ごし、自分の人生を歩んでいって欲しいと願っています。

「まだ何も知らない若い芽は風雪に耐えながら成長しやがて立派な大木となるのです。」(林大ホームページより)

寮生活を送る

君達へ
小島 雅子



親元を離れた寮生活は、とても貴重な体験の場であると思う。自分の我を通せば、他の寮生が不愉快になるし、人の意見に流されてばかりでは、自分が辛くなるし、バランス感覚を養うのにとてほしいと思う。個人主義がいけないというのではなく、利己主義になりがちであるという今の社会。自分を大切にすることと同じ位、他人の意見を受け入れ、尊重してゆくことが、ともすると抜け落ちていくからである。共存共栄の心を、寮生活を通して培ってゆけば、社会に出たとき、林大

ネットワークを最大限に生かして、林業の世界に、活気ある温かい息吹を吹き込むことができると思う。今までと同じことをしては、どんどん勢いが無くなってしまう。それは、どんなときでも同じである。世の中に永遠のものはないのだから、常に新しい考えを取り込んでいかなければいけない。若い力を、そして考え方をプラスしてゆくことで、世界と渡りあえる日本ならではの林業の世界が、大きく展開されることを私は信じる。

なかしの

お父さんから

中嶋 健一



「森林は太陽エネルギーによる再生可能な永久エネルギーである。」オープンキャンパスのミニ講義で聞いた話に、今まで何気なく見ていた木々達の偉大なる力を再認識

させられました。まさに昔見た映画のように、森は人間が汚した地球を身をもってきれいにしている、そしてそれを守り育て活用していくのが林業である。楽しそうに授業の内容を教えてくれる子どもがとても頼もしく見えて来ました。林業は誰かが必ずやらなければならない絶対必要な仕事、この道を選んだことに誇りを持って頑張つてほしいと思います。また、最初は不安だった寮生活も、友達との色々なエピソードを聞くにつけ、楽しい寮生活を送っている様子が目に浮かびます。最初の一週間は独特な方言で会話が成り立たなかったとか？まさに日本全国から集まった精鋭達、林大に來なければ決して会うことの無かった一生の友達です。人間は色んな人に会い、色んなことを経験して成長していきます。今出来ること、今しか出来ないことに精一杯挑戦してください。最後に、地球の未来は君達の肩にかかっている。頼むぞ林大生！



ランチタイム・ラーニング（講師控室）

「クマと知事とお弁当と…」

森谷 祐子



七月の夜、送られてきたメールには、林道で出会ったという元気そうなクマが、バッチリカメラ目線で写っていました。九月には、「知事とカレーを食べる」ランチミーティングの様子を知り、林大生と知事が、直接意見を交わしていたのに驚きまし

た。また、紅葉の時期、権兵衛峠でアルプスを見ながら食べたお弁当は人生で最高の美味しさだったとのこと。寮母さんの寮生愛に感謝いたします。

木曾の自然の厳しさに直面することもあるかと思いますが、林大には本物との出会いがあり、現場や人との交流から直接得られる体験は、人生

自分磨きの

貴重な場所

米山 正勝



初めて家を離れての全寮制生活も、早一年が経とうとしています。最初は期待と不安で緊張していたようですが、良き先輩や仲間たちに恵まれ寮生活を楽しんでいる様子。私も学生時代に全寮制の生活を経験していたので、息子から寮生活や講義・実習の様子を聞き、当時の懐かしい思い出が蘇ってきます。寮生

の大きな宝となるでしょう。息子も自分の道を探りながら、少しずつ成長していると思います。改めて、先生方はじめ関係者のみなさま、地域の一人として目をかけて下さる町の方々にお礼申し上げます。厳しい季節も青空を見上げて乗り越え、あと一年を大切に過ごしてほしいと願っています。

活は仲間と同じことを学び寝食を共にする中で、自宅生活で許された我が儘や甘えを自制し、仲間との協調性や協同の精神を学ぶ良い機会だと思っています。また、林大では学校をあげて木曽福島駅伝大会やみこしまくり祭等、地域のイベントに参加すると共に運営スタッフとしても参加していると聞き、林学だけでなく地域の姿勢と環境に感銘しました。林大生活も折り返し地点となり、先生方をはじめ先輩や同級生、地域の皆様から学べるものは吸収し、人間性、社会性を自己研

磨しつつ生涯の友との生活を満喫してもらいたいものです。

過去からの

贈り物 未来へ

岡田 浩



もう随分前になりますが、地球（自然）とは「過去からの贈り物であると同時に未来



雪灯りの散歩路（木曽町）

の子供達から借り受けた物である」という話を聞いたことがあります。要するに今以上に良い地球（自然）にして未来へ渡す（返す）必要があるという訳です。

ベビーカーに乗っている頃から山へキャンプに通い、朝から晩まで虫捕り網でトンボを追い走り回り、サッカー、サッカーと言いながら何時しか高校建築科を卒業する頃、漸く自分の目標を見付け「山仕事に就きたい」と言ったときには正直驚きました。しかも初めて親元を離れての生活に加え全寮制で四人部屋！本当にこの子は二年間もやっていけるのか？と随分心配したものです。そんな親の心配をよそに、たまに帰省したときに口から出て来るのは寮生活での楽しい話ばかり。ホッ！とする反面、いつたい学業はどうなっているのか？と次の心配。ところが会話の端々に林大で学んだ知識が見え隠れしたときには「本当に楽しんで林大生活を送っているな」と安心しました。

の為、日本の正しい林業の為、そして未来の子供達の為、感謝の気持ちを忘れることなく、将来に向かって一歩一歩進んで欲しいと思います。

母の思い

倉田しのぶ



工業を学んでいた息子が「林業を学ぶ」と林大に入学し早二年、気付けばもう卒業間際になりました。あの小さい頃入院ばかりしていた子が、三人兄弟の末っ子なので、いつまでもかわいく小さいままだった様な気がするのには春には社会人。子供の成長が嬉しくも寂しくも感じます。

息子にとって林大での二年間が学生生活の中で一番楽しそうに見えました。寮母さんの美味しいご飯、寮での友達との生活、一緒に遊んだり、木曾の川で釣りをしたり。林

業の職に就きたかったという通り、授業もしつかり勉強したんだと思います。お陰様で自分の思っていた職に就くことが出来ました。

最高の二年間が送れたのも、先生方、地域の方々、何より友達、皆様のお陰です。ありがとうございました。これからも自分の出来る精一杯の力で人生を楽しみ、周りの人を大切に、感謝し歩んで行って下さい。

生かされて 生きる感性を

鈴木 義雄



二年間、息子が大変お世話になりました。息子は、小さいときから、金光教フオーゲルという、信仰を基にした青少年少女団体の中で育てられました。そこでは、キャンプ、ハイキング、スキーなどの活動をとおして、天地の間に生かされて生きているという、

天地の道理を学びます。息子が林業の勉強を志したのも、この活動が基本にあつてのことだと言います。現代の日本の社会は、明らかなひずみがあるとあります。そのひずみの原因の一つは、天地の間に生かされて生きているということが、忘れ去られてしまっていることだと思っています。大切な感性が、失われてしまっているのです。森林には、この感性を磨く力があります。現代日本のひずみを修正するために、林大には、これから一層、天地の間に生かされて生きていることの分かる人材の育成を進めていただきたいと、切に願っております。

「目標を持つ 大切さ」

多田 均



進路決断間近、中学生の夏に将来何に成りたいのかと聞くと、いつも無口な息子が

「どうしたら、あの仕事が出るのか」と聞いてきた時のことを思い出します。

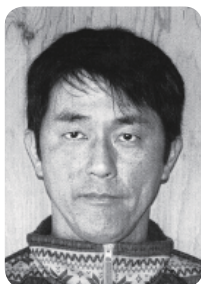
『地域の仕事体験』を終えた息子が、山や森の林業の仕事が自然の中で手を加えながら木を育て、木材から製品になつていく仕事を見て、自分達の生活に関わっていることを楽しげに私に話してくれました。目標を持つ大切さは本当に大事だと知りました。

それからは、高校、長野林業大学校と目標に向かって息子なりの一步一步ですが、前進していると思ひ応援しておりました。

親としては、四人兄弟の末っ子でしたので、自立する

林大という選択

三川 智志



過去の林大だよりの保護者の作文を読み返し、みんなうちと同じなのかなとあらため

息子に頼もしさも感じますが、目標は立てても、昨今の就職難の苦勞はあります。だからこそ、又新たな目標を是非見つけて、林大で身に付けた技術や体験して得た知識など、これからの仕事に生かしてほしいと願っています。

林大での寮生活は、良き友と人生に多大なる影響を与え、豊かな財産になつたに違いないと思います。

林大の先生の皆様と寮の関係の皆

て驚きました。進路選択に悩む中でこれといった決め手がなく悩んでいた子どもが林大のことを知ったとたん「ここだ！」と即決したというようなお話がいくつもありません。

体を思い切り使い、手先も頭も使い、安全のため細心の注意を払う林業の仕事。そして、日本の国土の大部分を占める森林をどうしていくのかという日本の未来を作っていく仕事。

様、本当にありがとうございました。



2学年 林業架線学実習（木曽町）

実習やフィールドワークが多く、何のために学んでいるのかはつきりしている学びは、とりあえず大学にでも行っておこうかという選択の対極にあるものかと思ひます。たとえば、また他の仕事を選択していくことがあつたとしても、楽なことではなく、このような充実を求めるみなさんは、きつとどこに行っても立派な仕事をしていくことができるものと思います。

「お願い」

第26期生
田中 真喜

日々落ち着いて仕事をし、全てにおいて順調であるならば、格好良い言葉で皆さんに何か伝えられるのですが、残念ながら、私の毎日は慌ただ

「学生と共に卒業」

企画幹兼教授
伊東 嘉文

時が経つのは早いものです。平成二十二年四月、十二年間に亘り勤務した長野県林業総合センターから本校へ異動し、もう三年が経ちました。三年間で、四つの学年の八十名近くの学生と接

しく反省ばかりです。

私は現在長野市の素材生産の協同組合で技師として働いています。皆さんと同じ林業大学の卒業生であり、信州大学に編入後、就職してもうすぐ五年が経とうとしています。

日々思うところは、自分がいかに不勉強であるか、ということです。

就職してすぐ山の地主さん達と現場の間を行き来する職場になり、社長さん達と打合

檜のアドバイス

したことになります。

二年目から担任となり、二年生の卒業と一緒に長野県職員からも卒業です。思い起こせば、懐かしい思い出いっぱいです。職場環境が激変したうえ、私の最も苦手とする十八〜二十歳を中心とした年代の学生とどう向き合ったら良いか、戸惑いを覚えながらのスタートでした。

やはり、印象の深いことは通常の授業よりも校外の研修等で、屋久島等南九州とオー

わせをし、国の制度等も利用していることから市町村や県の職員の方々にも様々指導頂く中で、「林大を出たのだから知っているだろう」、そして答えられないと、「林大を出たのに知らないのか」、と失望させてしまうことが数多くあります。知識は信頼と同義です。在学中に出来る限り勉強しておくことを勧めます。

しかしながら、山の技術と歴史は一生かけて学ぶ程のも

のであるのに、林業大学を卒業するときに得ている知識はほんの一握りです。しかも、テストで良い点数を取っても、実習で良い結果が出て、残るものではなく、生半可な知識は地主さん達には届きません。

今でも、先生方の言葉が頭に残り、助けられます。「授業で習ったことは中々覚えられない。実際に失敗しながら覚えるもので、それよりも、教本のどのページに書いてあるかを把握していれば良い」

「教科書は一生持ち歩け」と。出来ない私には尚更なことです。専門職として最低限の知識は修めなければなりません。が、それと同時に、寮生活を謳歌し、興味のある分野を突き詰め、自由に動き、学校に無理をお願いして自分達の最高の二年間を作り出すことに集中して下さい。そして、将来仕事で言えば、共に勉強し助け合い、良い山づくりをしていきましょう。

それだけ、お願いします。

印象深く思い出されます。学生にとつても同様だと思えます。

授業については「林業機械学」、「樹木学実習」、「森林計画・普及論」等を担当させていただきましたが、これらの中では、総合実習での伐採・搬出作業、御嶽山登山、赤沢自然休養林、権兵衛峠等の巨樹・巨木巡り、指導林家の山林見学等々、やはり教室での講義より現地での研修等が思い出されます。

講義ではすぐに寝てしまう

学生、起きていても聞いていそ

うには見えない学生、熱心に聴き、相槌まで打ってくれる学生、等々で、成績の方もずば抜けて良い者から、「ウーッ……！」となってしまうような者もあり、その差は極めて大きかったです。しかし、終わってみれば「だからどうだ」という訳でもなく、どの学生もそれなりに成長して卒業を迎えてくれました。

担任であった三十三期生については、大変まとまりのあるクラスで、多士済々な学生に恵まれ、本当に幸せだった

と思います。進路は当初の希望通り進んだ学生は少なく、第二・第三志望の進路となった学生の方が多いでしょう。挫折感を味わった学生もいると思います。今後は、これらの経験を糧にして、この厳しい環境下で、自分の置かれた立場を踏まえ、各々が努力して色々な意味で、豊かな人生を送ってほしいと思います。県職員最後の職場となった林業大学校での三年間は、通常の行政の仕事ではできない貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。ありがとうございます。

我 ら 林 大 生 !

第33回
卒業式

林大生と共に

寮母 遠藤 雄子



今年の寒気は、ことのほか厳しい毎日ですが学生さん達はこの厳しい寒さにも負けずに期末に向けて一生懸命に頑張っておられます。朝の体操が終わりますと、それぞれに講義に実習へと向かって行きます。「行ってきます。又美味しい食事をお願いします。お昼楽しみです。」「まかしといて、いつてらっしゃい。」皆さんの元気な声かけに励まされ、食事の準備で大奮闘の始まりです。

私も最初のうちは、戸惑うばかりでしたが、段々慣れていくうちに色々といふことができ、事を為していくには、十分な段取りが必要で、段取りができていないと一日中パニックになってしまいます。今は、お陰様で仲間の人達と協力し合って、少しでも皆さんに喜んでいただきたいと思いますようにと心掛けることがで

きました。食事ごとに、皆さんの食事をとっている様子を窺って、朝食は慌しいので多くもと、夕食は一日の学習が終わりほっとした様子で会話や笑い声が聞こえてきますと、こちらもホッとできます。

各地から林大を希望されて特に遠方からの皆さんやご両親、全寮制であることに変不安や心配があらゆるようですが、先生方の手厚いご指導や、先輩方が親切に寮生活や後輩につないでいつてほしいこと等アドバイスして下さいます。東日本大震災の時の絆の様にだんだんつながりができ、大勢の人との交流ができてくると思います。

全寮制であればこそ貴重な沢山の経験や体験が得られ、現在では社会情勢がとも厳しい中、どんなことに直面されても寮生活での経験や体験を生かすことで頑張り抜いていけることと思ひます。今年も一段と遅しく成長なされ卒業されていく皆さんと共に私も楽しく頑張り過ごしてこられたことを誇りに思ひます。

これからはそれぞれの道に進んでいかれますが健康には充分留意なされまして、頑張つて大いに御活躍なされますよう、心よりお祈り致しております。

編集後記

3月5日に、来賓や保護者の皆様の参列の下、卒業式を行いました。すがすがしい笑顔で巣立つていく卒業生、「これからは自分たちがこの林大を背負っていくぞ」という思いを胸にそれを見守る在校生、それぞれの若者の顔が輝いて見えました。

卒業生は、これからそれぞれ自分が選んだ道を進んでいきます。楽しいことがたくさんあるかと思いますが、それ以上に困難も待ち受けていることと思ひます。困難にぶつかったときは「ピンチはチャンス」と唱えてみたらいかでしようか。困難なときほど、それを乗り越えたときの成長は大きなものとなり、今まで見えなかったことに気付くことができると思ひます。自分を成長させるチャンスを与えられたと考え、前向きな姿勢で乗り越えていくことを期待しています。

さて、4月になりますと、在校生は2学年として新入生を迎えます。新たな1年間で、それぞれの学生がどのように成長するのか、とても楽しみです。(M)